

PBLのプログラム設計

和歌山大学
協働教育センター
キャリアセンター本部 キャリア教育オフィス
講師 木村亮介

和歌山大学の実践的キャリア教育HP
<http://www.wakayama-u.ac.jp/career/careeredu/>



PBL

Project／Problem based Learning



Project-based learning(プロジェクト型学習)

Problem-based learning(課題解決型学習)

企業や、地域、教員、もしくは学生自身が設定した課題や目標に対して、
学生がチームを作り協力して取り組むことを通じて、知識習得・体験学習を行う教育手法。

二つのPBL

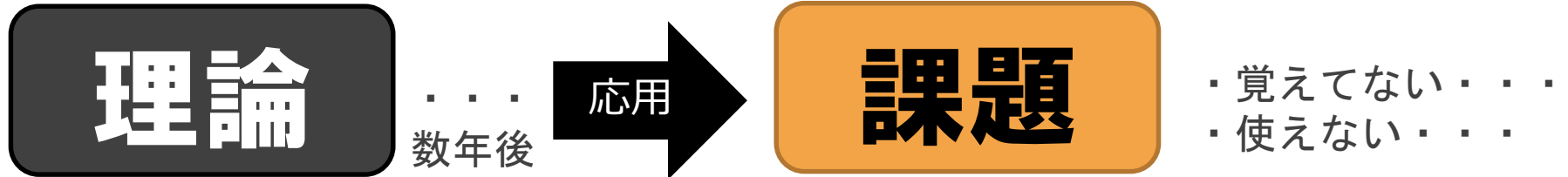
- **Problem-based learning**
(課題解決型学習)
 - 具体的事例 (シナリオ) に対して、その解決に必要な知識を小グループで自立的に学習していく
 - 医学系・工学系から導入 (PBLチュートリアル)
- **Project-based learning**
(プロジェクト型学習・課題解決型学習)
 - 一定の目標を達成するためにチームで取り組む過程を通じて知識習得・応用・体験学習を行う
 - 実務家養成、キャリア教育の文脈による拡大
 - 例) ゼミ、卒研、クリエPJ、LIP、インターンシップ・・・

PBLを用いる目的

- ① **知識習得・定着、応用力の向上**
→知識結合
- ② **学習意欲の向上**（学習の動機付け）
→主体的な学習習慣
- ③ **ソーシャルスキルの向上**
→社会人基礎力

①②の背景

系統的学習



- ・学ぶ気にならない
- ・何が大事か分からない

ではなく・・・

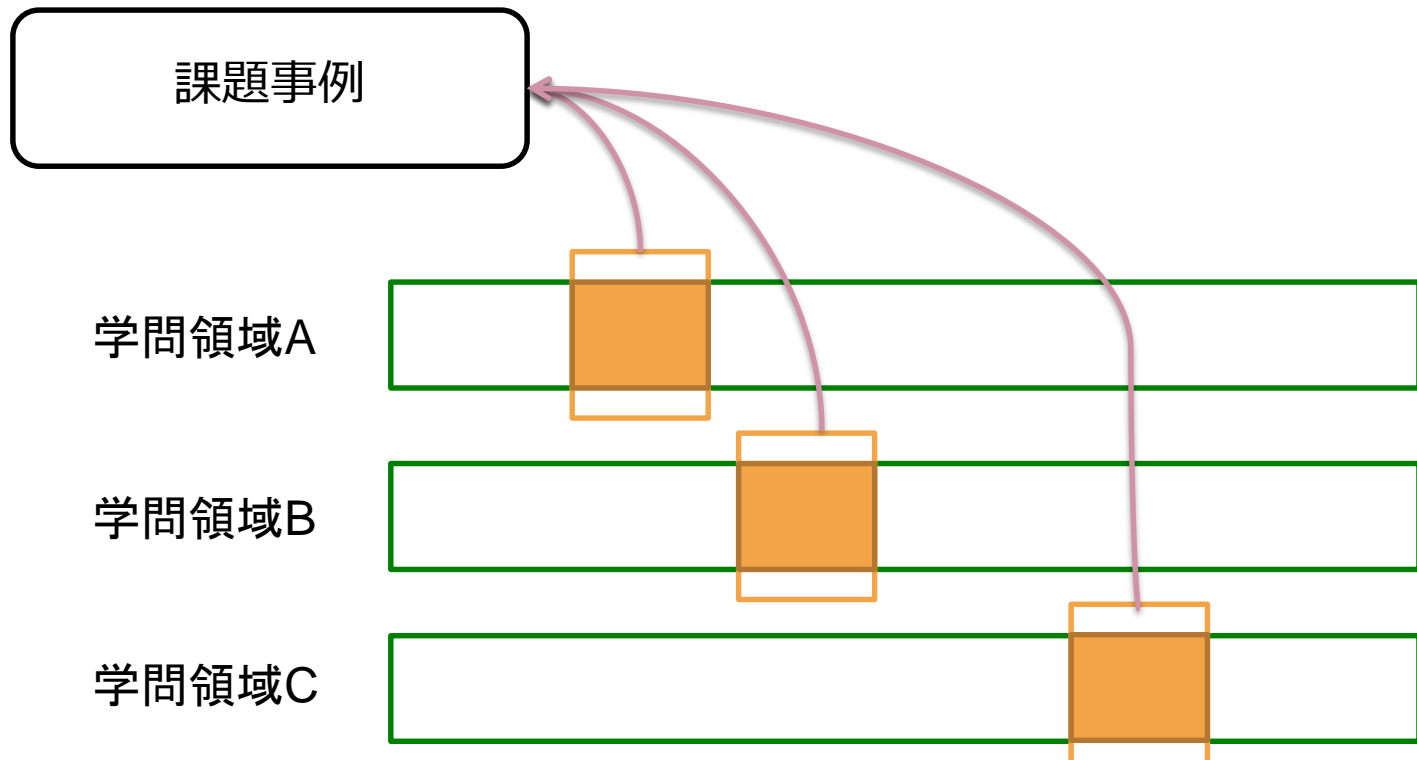


PBL



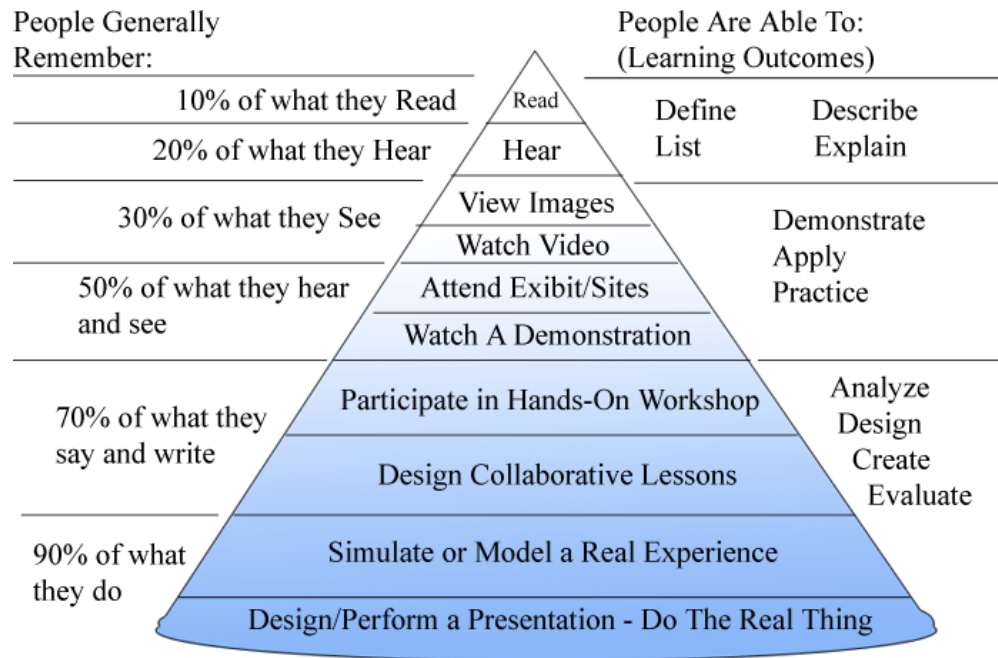
①知識習得、応用力

自分に足りない、異なる分野の関連知識を
学習（結合）し、事例に適用する



①知識定着

エドガー・デールの「経験の円錐」によると「読む」「聞く」などの受動的学習よりも「書く・話す」「やる」などの能動的学習の方が知識の定着率が高い



Dale's Cone of Experience

(出典) Edgar Dale "Audio-Visual methods in teaching" 1946

<http://teacherworld.com/potdale.html>

②学習の動機付け

- アウトプットの必要性＋グループの相互依存
- 知識不足感→主体的な学習へ
 - 特にプロジェクト型の場合「失敗」体験が次の学習意欲へ
- 仕事への動機付けにも
 - 将来の仕事を想定した課題の場合
 - 疑似体験による職業観の醸成
 - 就業意欲が高まるほど学習意欲も高まる

③ ソーシャルスキルの向上

「社会人基礎力」などの自己特性認識・訓練

- 平成18年2月、経済産業省では産学の有識者による委員会(座長:諏訪康雄法政大学大学院教授)にて「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を下記3つの能力(12の能力要素)から成る「社会人基礎力」として定義づけ。

< 3つの能力 / 12の能力要素 >

前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

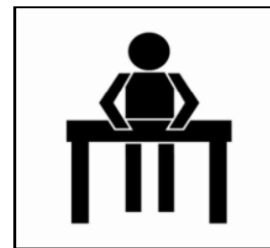
他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力

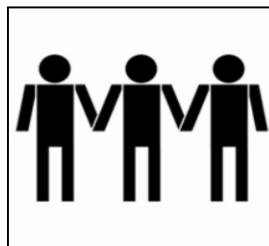
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

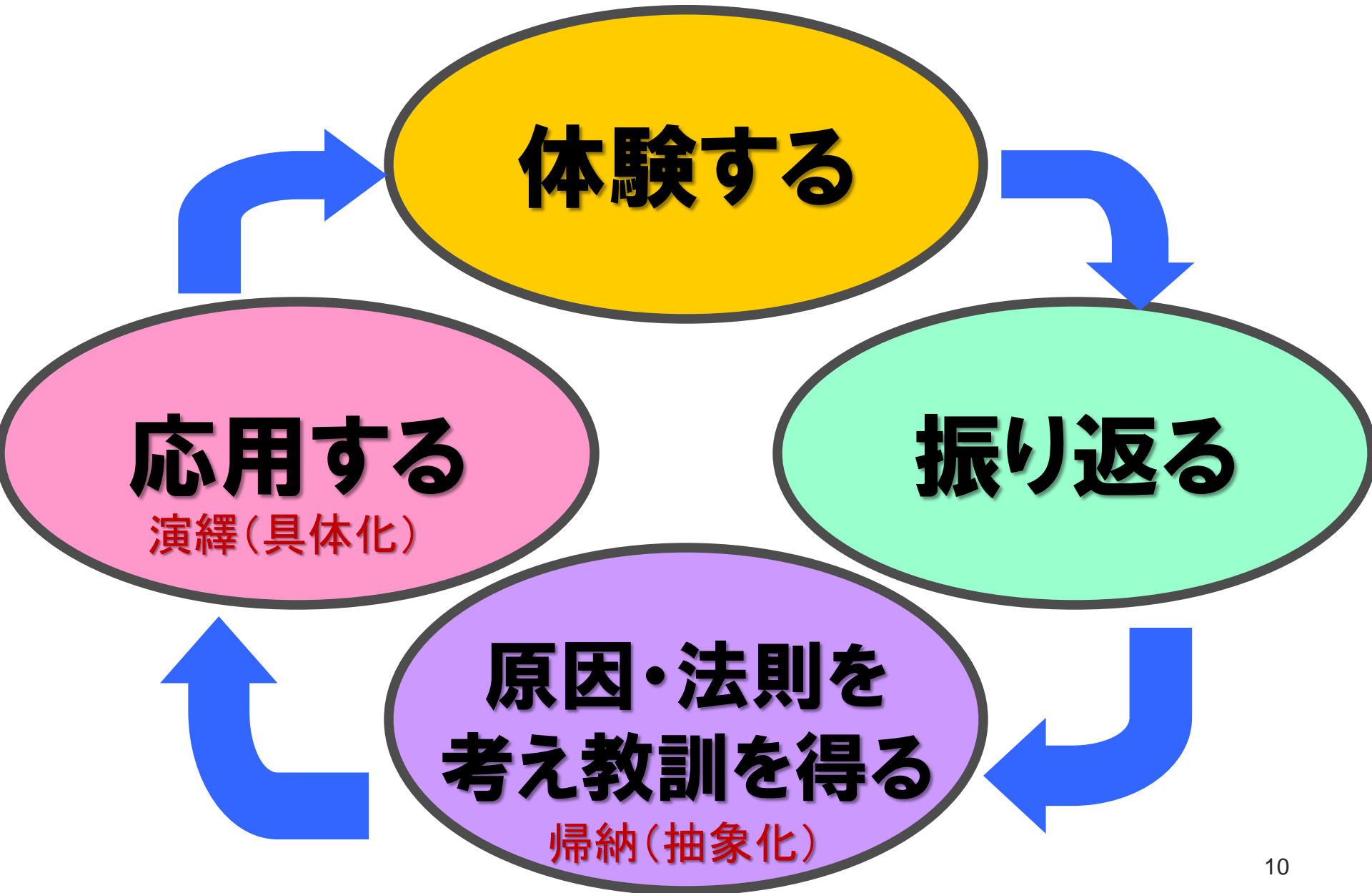
規律性

社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

体験学習サイクル



Project-based Learningの類型 1

- (企画)立案型
 - ゴール：企画・解決プラン等の構想の提案・プレゼン等
 - プロセス：机上における思考が中心
 - →一般の科目と同様に位置づけやすい
- 実行型
 - ゴール：企画の実行、実物の制作等、現場での実証や具現化
 - プロセス：現場や作業場における作業が伴う
 - →特別な科目として考慮が求められる

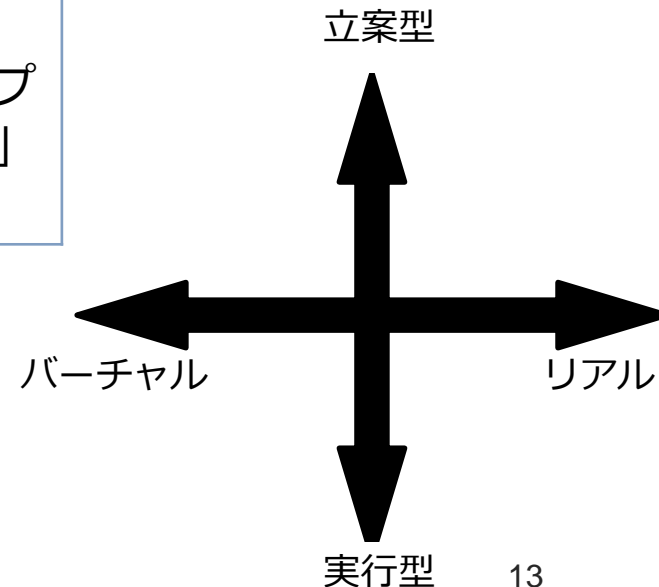
Project-based Learningの類型 2

- バーチャル型
 - アウトプットが社会(経済活動・政策等)に直接関わるものでない(影響を与えないもの)
 - 教員が提示する架空の課題など
- リアル型
 - アウトプットが社会に直接関わるもの(影響を与えるもの)
 - 企業等が提示する実際の課題など
→ 「産学連携型」、「社会連携型」
 - 調整が難しいが、動機付けしやすい

Project-based Learningの類型 と「傾向として多いもの」(仮)

	バーチャル	リアル
(企画)立案型	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的科目 ・ 1dayインターン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア科目 ・ 建築系 ・ 「地域協働自主演習Ⅰ」
実行型	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザイン系 ・ 情報系 ・ クリエイティブ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「プロジェクト科目」 ・ LIP ・ 実践型インターンシップ ・ 「地域協働自主演習Ⅱ」 「同adv.」

※実際は完全に区分できないのでマッピングが適当



キャリア教育を意識した、
企業等との協働によるリアルPBLを中心に考える

事例) 企画立案型リアルPBL

2012年度 キャリアデザイン入門

■ 開講時限

1年前期 水曜日2時限・木曜日2時限 (同内容でクラス分け)

■ 講義スタイル・内容

PBL (Project based Learning)

協力: 早和果樹園株式会社

■ 受講者数 364名 (水曜・木曜合計)

※全1年生のうち教育学部を除く約半数

■ ねらい・目標

- 自分自身のキャリア(生き方)をデザインしていくという姿勢と心構え、基本的な知識を「身につける」
- 加速度的成長のための思考法を学び実践する
- グループワークの基礎を学び、経験を積む
- 大学生活のビジョンを描き、プランを作る

先進的企業のリアルな課題に取り組む

有田のみかん生産から加工・販売まで、多様な商品開発に意欲的に取り組む6次産業農家
テーマ「ボリュームゾーン向けみかん加工商品の企画開発」



3部構成



第一部 オムニバス講演

- ・ 大学とは？
- ・ 学長によるアピールプレゼン
- ・ 輝く先輩たち
- ・ 活躍するOBOG

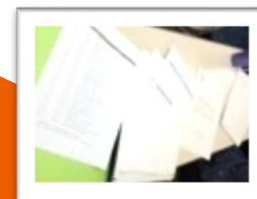
自校教育
導入教育



第二部 PBL

- ・ チームビルディング
- ・ ミッション発表
- ・ マーケティング基礎
- ・ チームワーキング
- ・ プレゼンテーション
- ・ 振り返り

実践から
気づきへ



第三部 ビジョン メイキング

- ・ ビジョンの持つ効果
- ・ ビジョンの作り方
- ・ ビジョンの使い方
(行動計画)

キャリア
デザイン



第二部:PBL

必要なタイミングでレクチャーを挟んでいく

講義回	内容	詳細
第4回	チーム形成	<ul style="list-style-type: none">・ チーム作りリーダー立候補→チーム構成員の学部性別が均一になるように条件を提示→条件を満たすようにリーダーがメンバー集め
第5回	企業紹介・ テーマ発表	<ul style="list-style-type: none">・ 連携企業が初参加。企業説明とテーマ発表。「ボリュームゾーンをターゲットとした商品の企画開発」・ チームと個人の目標設定
第6回	マーケティング 基礎	<ul style="list-style-type: none">・ アイデア作りの基礎（ブレインストーミング）・ マーケティングコンサルタントによる講義・ 企画の概要とリサーチ案を作る
第7回	企画ワーク	<ul style="list-style-type: none">・ 最終成果物の事例紹介・ 企画開発ワーク
第8回	社長講演	<ul style="list-style-type: none">・ 連携企業社長による講演とここまでのフィードバック
第9回	相互フィード バック	<ul style="list-style-type: none">・ チームメンバー内で相互にフィードバック・ 企画開発ワーク
第10回	プレプレゼン テーション	<ul style="list-style-type: none">・ 予選に向けて概要のプレゼンテーション・ 企画の最終仕上げ
第11回	予選プレゼン	<ul style="list-style-type: none">・ ブロックにわかれて予選プレゼン・ 投票により代表5チームを選出
第12回	最終プレゼン	<ul style="list-style-type: none">・ 最終プレゼンテーション・ チームでのふりかえり

講義の様子(最大200人のPBL)



リーダーの立候補



連携企業によるテーマ発表



プレゼンテーション



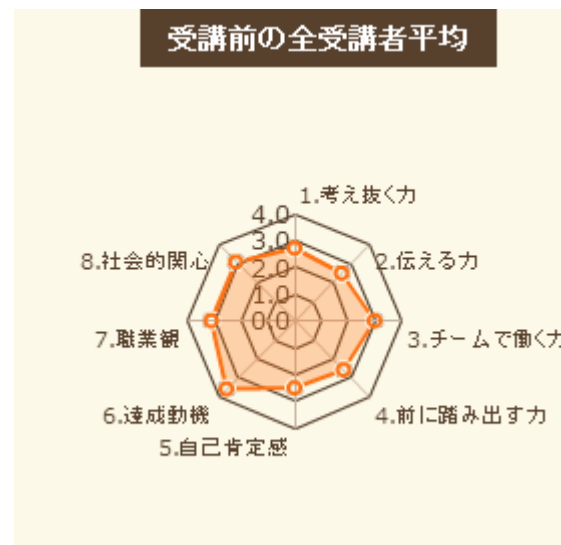
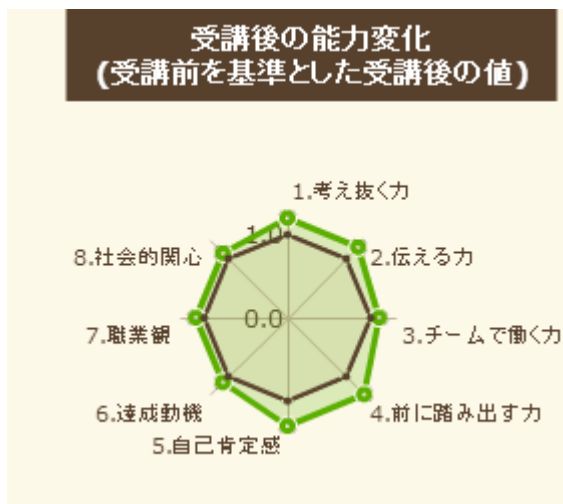
グループワークの様子



学生の感想

- 自分が今、何に向かって何をすべきかについてはっきりとするものが見えた。
- この講義は行動しようとしている人の背中を押してくれたと思います。
- 大学生の可能性の限界を勝手に決めつけていた自分に気付かされた。
- 4月の頃の自分より一回りも二回りも成長できた。
- 自分が自分のために、そして誰かのために頑張ることでそれが結果として必ず現れるということを学びました。それは、自分がこの授業を通して経験したから言えることです。
- 和歌山大学にとっても誇りが持てるようになりました。
- 日々の授業の中で自分に足りないことを自覚しながら、ここまで楽しい授業は初めてでした。

キャリア教育効果測定システム



(回答132名)

○「自己肯定感」・「前に踏み出す力」が顕著に向上

⇒主体性につながる力

授業終了後の活動(実行型PBL)



- 提案内容(最優秀賞)を元に
- 連携先(早和果樹園)での商品化に向けて
- (最優秀賞のチームメンバーなど)有志の学生達が活動



果汁配合バランス調整



マーケットリサーチ

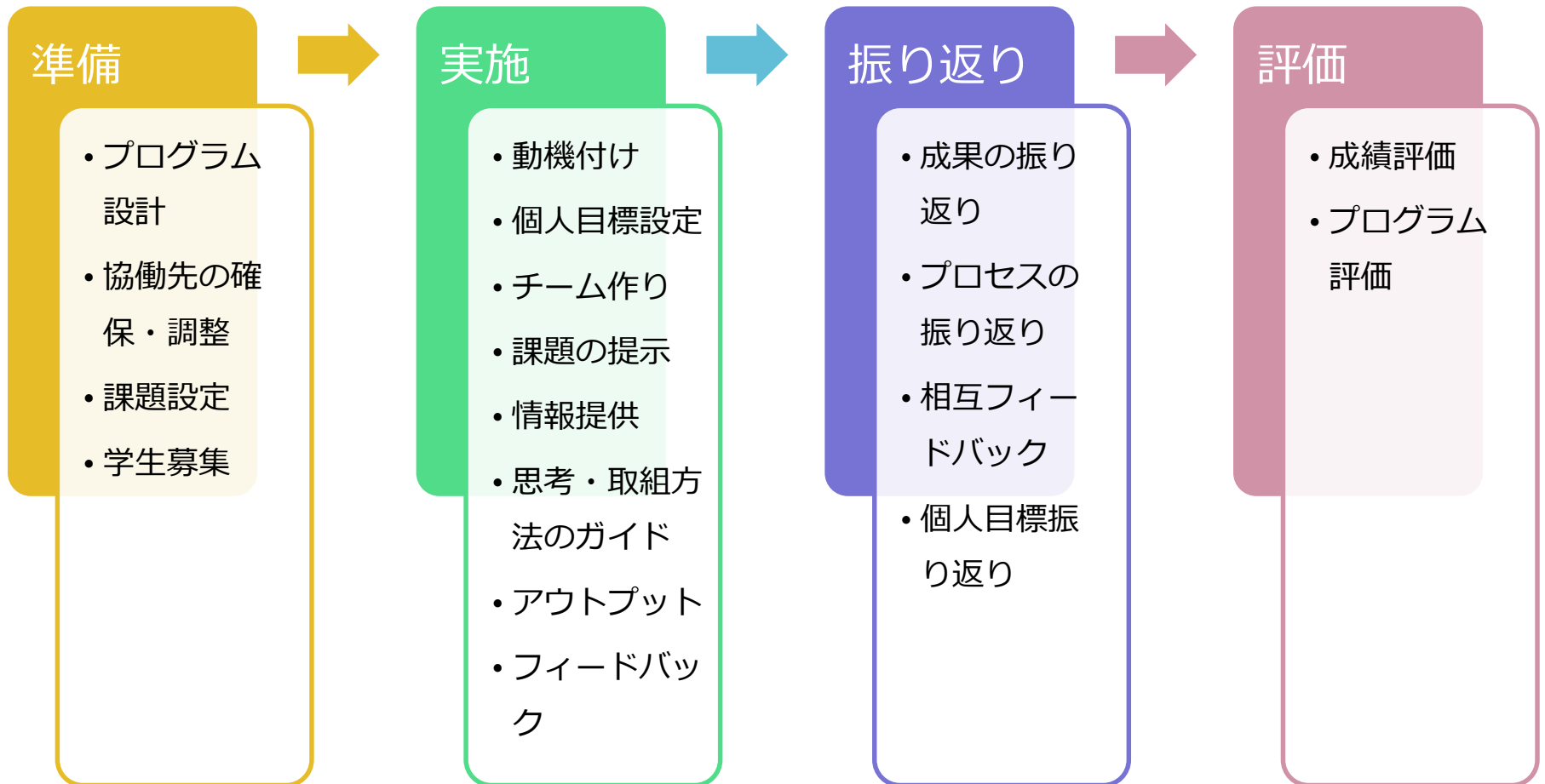


ネーミング
パッケージデザイン

PBLのプログラム設計の流れ

企業等との協働によるリアル
Project-based Learning（企画立案
型を中心に）

PBLプログラムの流れ



準備) プログラム設計

- 受講対象・条件
- 教育目標
 - 知識／学習意欲／ソーシャルスキル
- スケジュール
- 実施体制（教員・TA）

準備) 協働先の確保・調整

確保ルート

- 個人的人脈
- 各センター
- 公的機関・
業界団体
→ 「AICE」

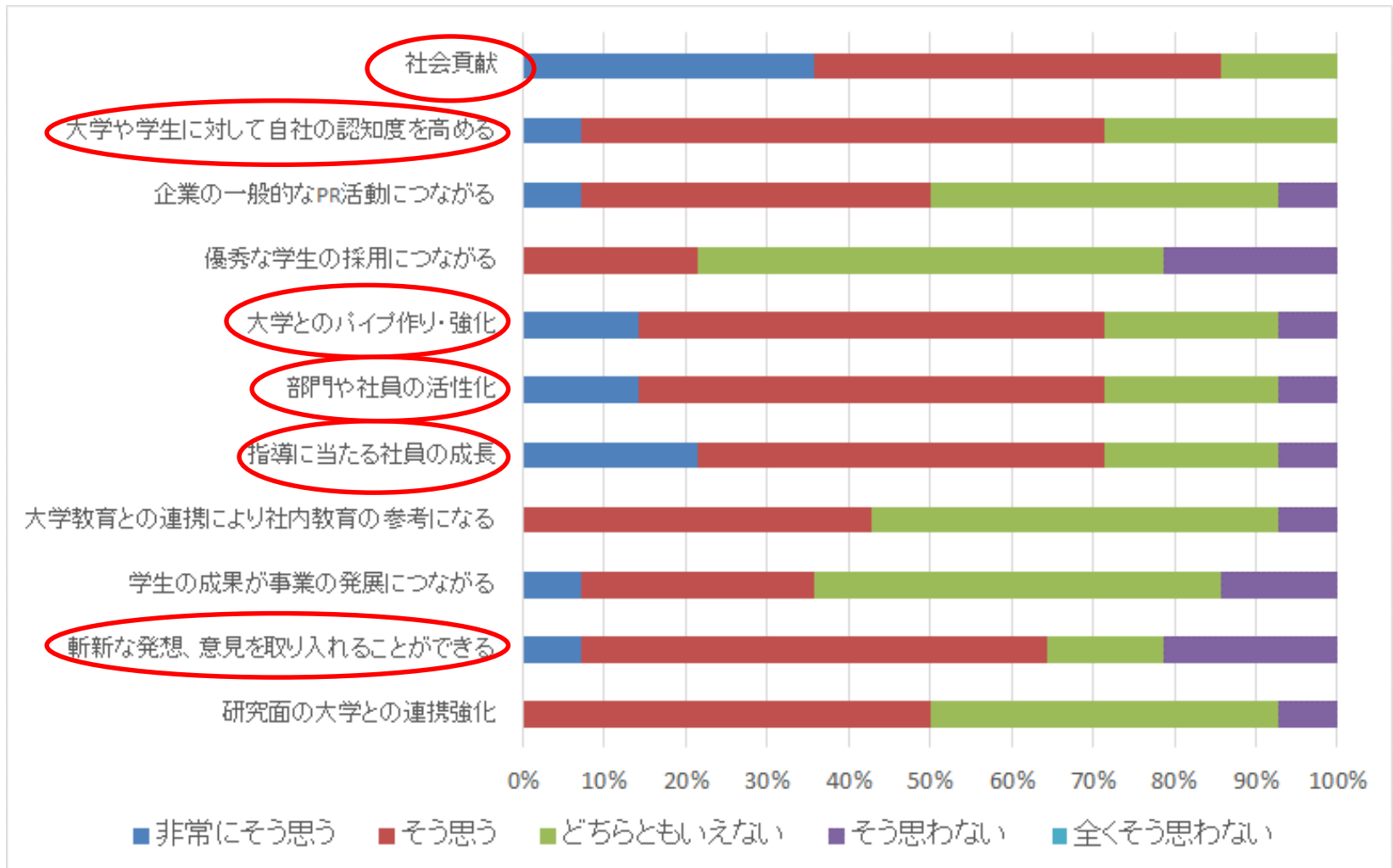
調整)

実施前に明確に共通認識を持つ

- 条件（謝金等）
- 依頼内容(来訪回数等)
- 協働先の目的(効用)
- 提供課題
- アウトプット（ゴール）
- （権利の帰属）

参考)

PBLに関わった企業のメリット



出典)平成24年度文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
大阪・兵庫・和歌山「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」
テーマⅢ「領域・規模別産業界ニーズをふまえた教育手法・手段の開発」委員会(2014)
「インターンシップ・PBL調査集計」「平成25年度 企業が求める人材像調査 インターンシップ・PBL調査報告書」(一部修正)

参考) 産学協働人材育成機構「AICE」

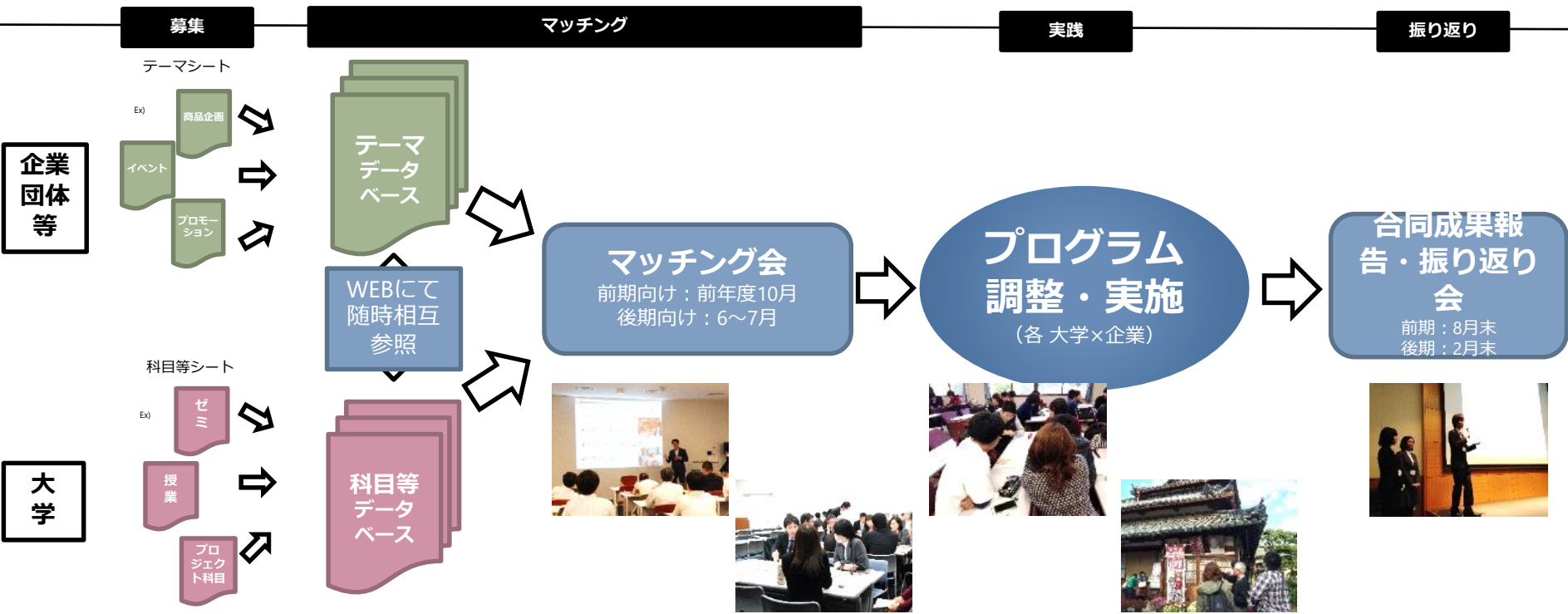
産学連携型PBLを推進するために、複数大学
と複数企業のマッチングの場を創出し、プログラムの質を高め合う取り組みがスタート



<http://www.sneeds-b-kansai.jp/AICE/>

参考) 「AICALプログラム」募集～実施の流れ

Academia-Industry Collaborated Active Learning

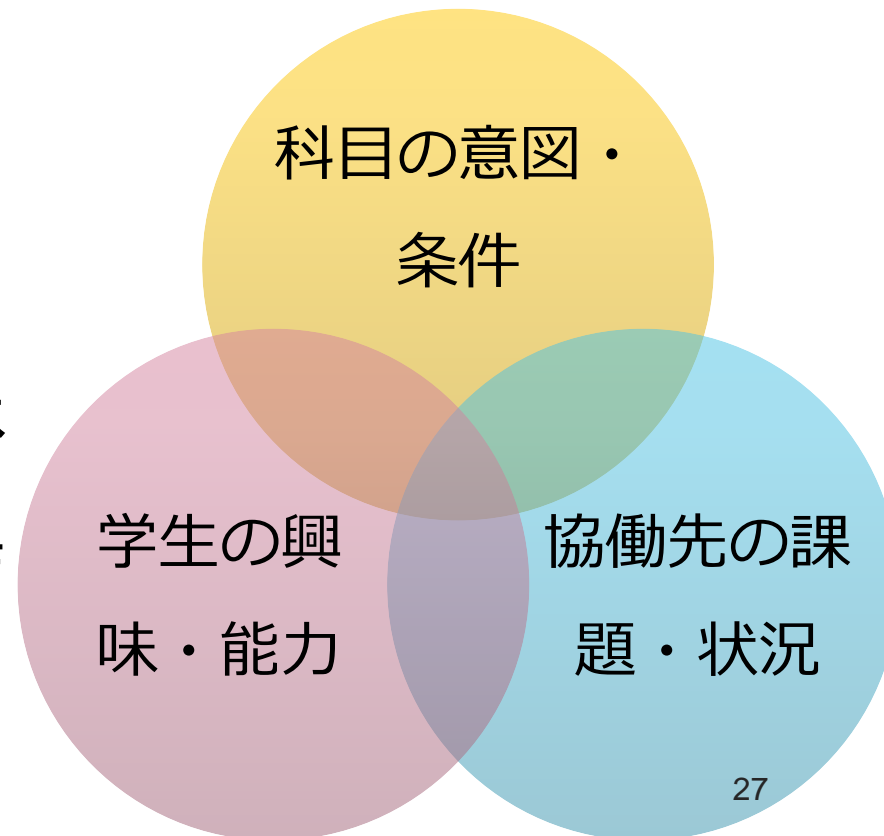


準備) 課題設定 (テーマ・ミッション)

ちょうどいいバランスを考える

「学生ならではの
斬新な発想」
に期待しない事

- 抽象度と自由度
- 難易度と時間×能力
- 専門性と学生確保
- 経営課題と学生の興味
- リアリティと機密保持



アウトプット・目標を決める
→プレゼン? 企画書? 項目はどこまで?

参考) 抽象度の例

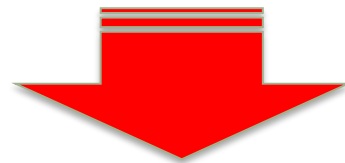
- 九度山の活性化策
- 九度山の観光施策
- 九度山のお土産品開発
- 真田丸放映に合わせたお土産品開発
- 真田丸放映に合わせた、道の駅で販売する、地元産加工食品のお土産品開発
- . . .

抽象度が高すぎると課題分析だけで時間がかかる

いくつかの選択肢から学生が選ぶ方式も可

参考) 抽象度の高いグループディスカッションのお題の場合

「和歌山県の東エリアについて議論して下さい」・・・×



ではなく・・・

「あなたが県知事だったら、和歌山の東エリア（高野山や紀ノ川筋）をどんな地域にしていくか（どう地方創生するか）」

議論の切り口を提示しておく

- ・ 行ったことはある？ どんなイメージ？ 何か知っていることは？
(まず一人ずつ順番に)
- ・ 和歌山の中でこの地域はどんな役割・位置づけだろうか？
- ・ 日本の中では？ 世界の中では？ どんな特徴・強みがあるだろうか？
- ・ 観光面ではどんな可能性があるだろうか？
- ・ 産業面では？ 生活面では？ 文化面では？
- ・ 空海が高野山を選んだのはなぜか？ 高野山が外国人に人気なのはなぜか？

準備) 学生募集

ターゲット、ニーズ、差別化を考慮して

- キャッチコピー等
- 告知媒体・ルート

を検討

必要に応じて選考

※受講条件・協働による責任も明示

実施) 動機付け

- 得られる経験・スキル (成長意欲)
- (実務者から)得られる知識 (学習意欲)
- 将来のキャリアにつながる (就業意欲)
- 社会・人の役に立つ (貢献意欲)
- 人との交流の楽しさ (帰属欲求)

協働先からは、その課題解決がいかに(社会的)価値があることなのかを伝えてもらう

実施) 個人目標設定

- キャリアとの関連性
- 学問との関連性
- ソーシャルスキル

個人目標シート

DATE: _____

学部・研究科

学年

学題番号

氏名

○キャリアとのリンク

今回のプロジェクトは「将来やりたいこと」など、どのようにつながりそうですか？

例) ○○に関わる仕事に興味があるので、○○を実際にやってみることで必要なことが分かりそう。

○学問とのリンク

今回のプロジェクトは大学等で「学びたいこと」「学んでいること」など、どのようにつながりそうですか？

例) 建築設計の製図を早くやってみたい、これを機会に地域コミュニティについて研究していきたい。

○自己分析

自分の強みをどう活かしていきたいですか？
弱みだと思ふことをどう改善していきたいですか？

参考：社会人基礎力

強み(得意なこと)をどう活かすか	弱み(苦手なこと)をどう改善するか
例) 細かく計画を立てるのが得意なのでスケジュール管理に活かす	例) 働きかけ力が弱いので、自分から声をかけるよう心掛ける

実施) チーム作り

- チーム人数は4～5人が理想
- 複数チームに分ける場合は、なるべくチーム間のレベルが同じになるように
→成績順など
- 多様性を確保するために、専門性、性別、性格などのバランスをとる方法も
→性格診断など
- リーダーを先に立候補制にする方法も
- 役割分担、ルール等を決めておく

チームシート

チーム番号: _____ チーム名: _____

チームメンバー

学部	学年	名前	ニックネーム	主な役割

チームの方針 (結果効果を発揮していくために大切にする事、企業理念に相当する。)

チームのルール (その方針を実現していくために具体的な行動基準になること)

*チームとは「共通の目的、達成すべき目標、そのためのアプローチを共有し、かつそれぞれがチームに対してどんな役割と責任を果たしていくかについて共通の認識を持ち、お互いを補完する能力を持ったが人数の集合体」

©2020 Senjimon

実施) 課題の提示 情報提供

協働先の人が伝えたほうがリアリティが増す

- 課題の背景、社会的意義（動機付け）
- ビジョン(目標)と現状
- 条件、アウトプット（ゴール）、評価基準

同時に、関連する情報提供もする事が多い

- 現状を示すデータ
- ヒアリング可能な相手先等

実施) 思考・取組方法のガイド

- 思考法のフレームワーク、調べ方
- 取組時の注意点（フィールドワークのマナー等）
- グループワークの方法、スケジューリング、リフレクション方法等
- （できればオンデマンドで）専門知識のレクチャー

参考) 取組方、フレームワーク

グループワークのポイント

学部・研究科 _____ 学年 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____ DATE: _____

グループワークの基本的なはじめかた How to begin group work

- 挨拶・自己紹介。「お願いします」「〇〇です。よろしくお願いします。」
(ここでアイスブレイクを入れることも多い)
- 時間がかかるときは進行役を決める。
- タイムキーパーを決めて、時間配分の計画を作る。
- テーマとアウトプットを確認する。「～について考えるということですのでね」
「発表できるように箇条書きで3項目にまとめて…」

- 何を話し合うのか?
- 何を決めるのか?
- どうまとめるのか?

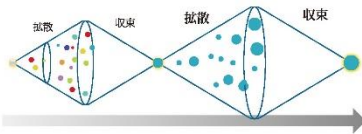
メンバー間で認識に
ズレがある場合が多い

これらを最初に確認しておかないと、時間をかけて頑張っても苦労が水の泡になる。

アイデアの出し方

How to propose an idea

- 「拡散」と「収束」を繰り返す
- 「拡散」と「収束」を同時に行わない
- 背景、前提となる情報を共有する
- よいチームワークを発揮する
- 発想法を使ってみる



発想法の代表 ブレインストーミング

テーマに沿って次々にアイデアを出していく発想法。日本語で言うと「頭脳突撃」。略して「ブレスト」と呼ぶことが多い。アイデアがアイデアを産み、思いがけない革新的なアイデアの種を生み出す。他人の脳を使って、発想のお祭り騒ぎを起こす感覚。

基本のやり方

テーマと時間を決める。ルールにしたがって、思いついたアイデアをどんどん発表して、全員が見える場所(紙など)に書きだしていく。扱ったテーマはできるだけシンプルに絞り込むのがポイント。

ルール

- 質より量。量で勝負!
- 思いついたら迷わず言う!
- ネガティブ発言禁止。出てきた意見を否定しない!
- 変なアイデア大歓迎!
- 他の人の意見に便乗する!

ファシリテーターの心得 [入門編]

学部・研究科 _____ 学年 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____ DATE: _____

ファシリテーターとは?

About facilitator?

「促進する者」。場のプロセスを管理し、活性化させ、議論や仕事を整理、円滑化する。チームのハイパフォーマンスを引き出し、目標達成へ向かわせる。ゴールを常に意識し、中立的な立場で場の力を引き出す。必ずしもリーダーではない。

ファシリテーターとは?

- 常にゴールやその場のテーマを意識している。グループの力を引き出しチームにする。
- 傾聴し、理解する。
- 時間を管理する。
- メンバーの「参加」を促進する。
- メンバーの多様な視点と共有化する(翻訳作業)。
- 参加者の参加態度や姿勢に気を払う。
- 物理的、精神的に安全な環境をつくる。
- 適切なメソッドやツールを学び、適切に使う。

心得

Have a way

- 知っておくべきこと
- 自分が理解したように他人が理解しているわけではない。
 - 自分は情報を持っているが、ほかの人も情報を持っている。
 - 私たちは、ほかの人の見ていないものを見ている可能性がある。
 - 相違こそ学びの機会である。
 - 人は与えられた状況下で、その人なりの誠実な行動をしようとする。
 - くだらないアイデアの中にイノベーションの種がある。

ファシリテーションの
思想とも言える。

ここがキモ!!

ルール

- 1 出てくる意見をいきなり否定しない。まずは受け止める。
 - 2 意見は短めにしてもらおう。他メンバーがもっと聞きたいときには時間を延長する。
 - 3 前置きはなくてももらう(前の人と同じなんですけどーなど)。
 - 4 質問で意見を掘り下げろ。
 - 5 とにかく議論を見る化する! 全員が見えるものに書きだしていく。
- これをファシリテーショングラフィックという。言葉だけの議論を「空中戦」と呼ぶ。空中戦を重ねると、えてして各々の主張が繰り返され、議論が堂々巡りになる。



ファシリテーターのOKワード

Facilitator's Ok word

- | | |
|--|---|
| <p>〇〇とはどういう意味ですか?/〇〇とは何えはということですか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同じ言葉を使っているにも、意味や理解が異なっている場合が多い。 ● その言葉にその学びや気づきをつづけるが、新たなアイデアを生み出す機会となる。 | <p>〇〇さんはどう思いますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 意見があるかなかなか出さない人いる。口が堅い人いる。意見を込んでいるけど、何かに引っかかっているか確認して意見を聞いてあげよう。 |
| <p>どうしてそう思いますか?/もう少し詳しく説明してもらえますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 上記と同じ。裏面や理由を引き出す。 | <p>ありがとうございます。/なるほど!</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 言葉にしているかどうかは関係ではなく、発言が場に取り込まれたということが大切。 |
| <p>目的は何でしょうか?/具体的にはどういうことでしょうか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 議論のレベルを調節する言葉。あまりに細かい議論になり話が噛み合わないときは大きな範囲から合意形成を、抽象的な場合は具体例を引き出す。 | <p>どうしますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ファシリテーターの影響力が強くなりすぎているときに、 |

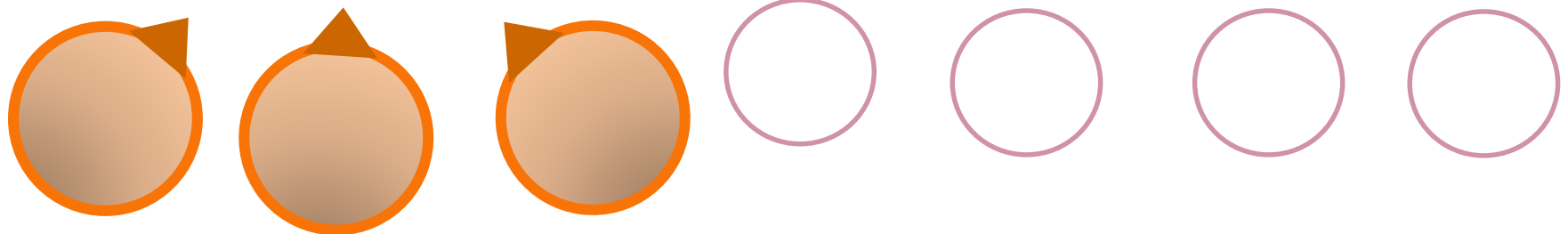
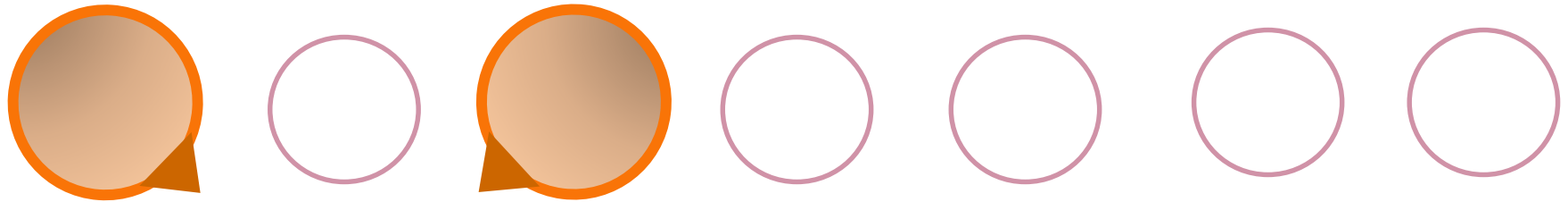
やってみよう! ワークの準備～スタートまで

- まずは全員が互いの顔を真見する際配置を確認しよう。
- パワーのある人(発言頻度の高い人、影響力の強い人)の配置に気を付けて、順番えをしてもらう。パワーの低い人を順に配置すると影響する恐れが!
- 必要なツールが揃っているかを確認しよう。紙やペン、時計やタイマーなど。
- 開始を宣言しよう。「それでは〇〇を始めます! よろしくお願ひします!」
- 役割分担を確認しよう。グラフィッカーとタイムキーパーが特に重要。確認可。
- ルールを共有しよう。「ふりかえりワークのために、3つのルールを…」
- テーマ、アジェンダを確認。「〇〇についてですが、確認しておきたいことはありますか?」
- 時間の組み立て。「全体で〇〇分なので、まず〇〇に〇分、最後に〇〇分…」
- スタート!

By Keita Ohgushi

参考) 階段教室でのグループワーク時の座り方

・・・前列真ん中の席を空ける



参考) 教員 = ファシリテーター としての役割

- 魚（答え）を与えるのではなく、魚の釣り方（考え方・取組方）を教える
- チーム内でのコミュニケーションのサポート
- 協働先との橋渡し

マーケティング フレームワーク

学部・研究科

学年

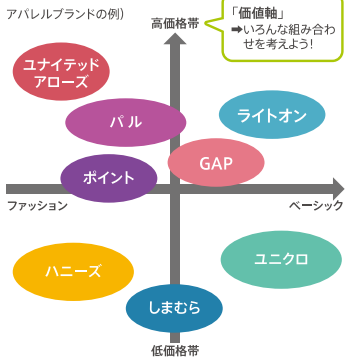
学籍番号

氏名

DATE: _____

ポジショニング・マップ

差別化できる(満たされていないニーズがある)領域、強みを活かせる領域を探せ!



出典:小川孔輔「マーケティング入門」

セグメンテーション→ターゲティング

顧客層を細分化し、ターゲットを絞り込み!

喫茶店の例)

デモグラフィック・ベース

性別: 男 女

年齢: ~20代 30代~ 50代~

居住地: 都市 地方

行動ベース

購入頻度: 月に10回未満 月に10回以上

生活リズム: 朝型 夜型

ニーズベース

おしゃべり目的 コーヒー好き 仕事・勉強の環境

3C分析



4P

Price
価格

単価・支払方法

- ⇒製造原価と買いやすさの考慮
- ⇒ブランドイメージとのバランス

Place
流通

販路・販売方法

- ⇒直接/間接
- ⇒売り場

Promotion
宣伝

広告・販促

- ⇒費用対効果
- ⇒メディア利用

着想のための3C分析+αシート

※様々な観点から思いつく限りたくさん書き出そう (関係者)
※思いつくところからでもいいが、是非一度整理化をオススメ!

チーム名 _____

(制約・所与) 条件	成功・参考事例	ターゲット
自社の強み・使えるリソース	競合	ニーズ

マーケティング フレームワーク

ターゲット E) 性別・自社の特性、カフェインが苦手・アレルギーのある、高齢者に配慮した女性 (産婦科)	ニーズ E) カフェイン抜きコーヒーを飲みたい、カフェイン抜きで喉が乾燥する多量なミネラルが含まない、美容・健康にプラスになるものがあるか?	商品・サービス コンセプト (提供価値) E) フォノフィインニューで提供した喫茶店。多量なミネラルから提供できる。化学薬品不使用の素材のため、安全安心。健康効果も期待できる。
顧客がそのニーズを満たすために選択可能な他の選択肢は?	その根拠(データ)は?	ニーズに比べ、差別化された商品・サービスとは? (結論)
競合 E) ネット... デジタルマーケティングの活用から競合のターゲットニーズは異なっていない。パーソナル化もある。... 様々なサービスの提供もできるが...	差別化ポイント (強み) E) フォノフィインニューのパーソナル化によることで、ミネラル量は、一般の喫茶店より低減し、かつ、化学薬品不使用の素材による。	他では提供できない強み (他ではなく自社商品を強み理由)

参考) リアクションシート例

- ・ PDCAサイクル、体験学習サイクルを回すことを促す
- ・ 進捗を確認する

【行動】 (今回を含め) 前回の講義以降自分から行動・努力したこと (調べた・働きかけた等) ・ その意図

【結果】 行動の結果 (うまくいったかどうか、順調か、生じた問題など)

【分析】 そこから得た気づき・学び・教訓 (成功・失敗要因、法則、原理、本質)

【感想】 その他、本日の気づき・学び

【目標】 次の講義までに取り組むこと (調べることなど)

学生番号

氏名

41

実施) アウトプットと フィードバック

- 中間段階でアウトプット（発表）→協働先からのフィードバックがあると軌道修正できる
- 複数チームの立案型の場合、最終アウトプットに対してランク付け(賞など)があると動機付けになる
- 協働先からのフィードバックが、学生が「足りない事」を知る機会になる
→単に「よく頑張った」で終わらないように注意

振り返り) 成果の振り返り

- プロジェクトによる社会的成果を測定する
 - 立案型の場合は協働先からの評価
- プロジェクト型の場合、測定可能な目標設定が重要

振り返り) プロセスの振り返り

- 成功要因、失敗要因の分析
- チームとして振り返る

参考) 振り返り視点の例

	よかったこと (Keep)	改善点 (Problem)
テーマ設定		
目標設定		
計画立案 (段取り)		
作業方法 ex.交渉の仕方など		
チームワーク		
進捗管理・計画修正		
まとめ (プレゼン)		

振り返り) チーム内での 相互フィードバック

- 自己分析に活かす
- 「youメッセージ」ではなく「Iメッセージ」で
- 中間段階で実施するとチームワークの改善がしやすい



さんへ

より

フィードバックシート *feedback sheet*

感謝 いつも~ありがとう

Thankyou

フィードバック① すごいと思うところ、チームや自分へのポジティブな影響など

Feedback.1

フィードバック② 改善点、気になること チームと個人の力をさらに引き出すために

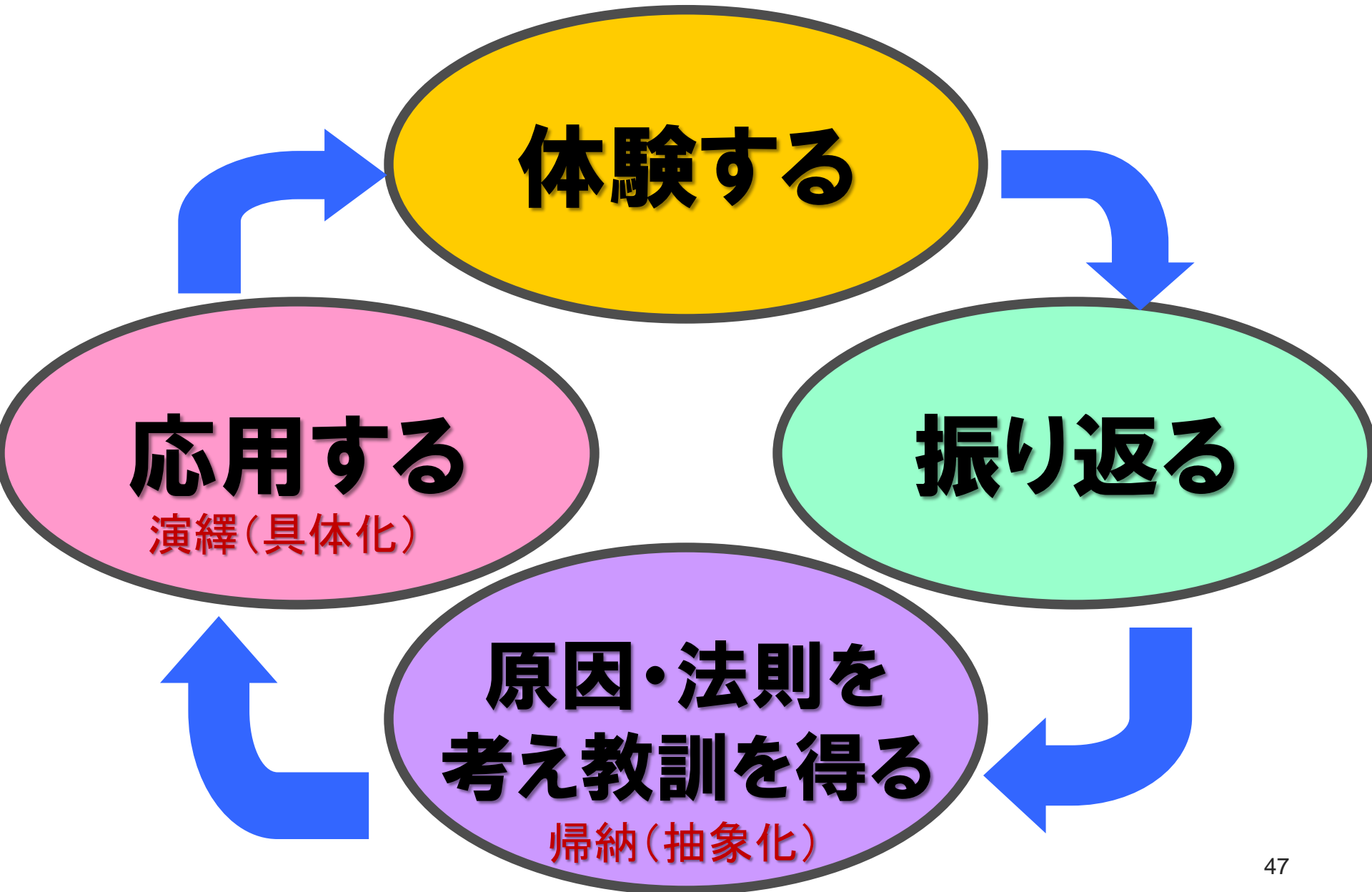
Feedback.2

振り返り) 個人目標の振り返り

- キャリアへの活かし方
- 今後の学習目標
- ソーシャルスキルの自己分析、課題

個人振り返りシート	
学部・研究科	DATE: _____
学年	学籍番号
氏名	
○キャリアとのリンク	今回のプロジェクトは「将来やりたいこと」などに、どのようにつながりそうですか? キャリアについて考える材料になったことは何ですか?
例) ○○に関わる仕事をやってみたいと思った。○○をしていくには○○が必要だと思った。	
○学問とのリンク	今回のプロジェクトは大学等で「学びたいこと」「学んでいること」などに、どのようにつながりそうですか? 必要だと思ったことは何ですか?
例) 強度計算の勉強をしたい。マーケティングの勉強をしてさらに実践してみたい。	
○自己分析	自分の 強み をどう活かしましたか? 弱み だと思うことをどう改善する努力ができましたか? 参考: 社会人基礎力シートの目標に対して
強み(得意なこと)をどう活かせたか	弱み(苦手なこと)をどう改善できたか
例) 確かく計画を立てるのが得意なのでスケジュール管理に活かせた	例) 働きかけ力が弱いので、自分から声をかけるよう心掛けた

体験学習サイクル→レポートで言語化



振り返り) 学問的位置づけ

- 学問的な大局観の中で、今回の取組事例がどのような位置づけになるかを改めて振り返る
- 単に個別具体の経験に終わらずに帰納・演繹できるように

評価) 成績評価

教育目標に応じて評価

- 知識習得→テスト、レポート(学問的にその事例を解説)
- 協働による知識応用力→課題成果×貢献度 (他メンバーや講師による評価)
- 学習意欲・取組意欲→学習時間(?)・取組参加度 (プロセス評価)
- ソーシャルスキル→レポート(体験学習による言語化)、プロセスの他者評価(講師等)

評価) プログラム評価

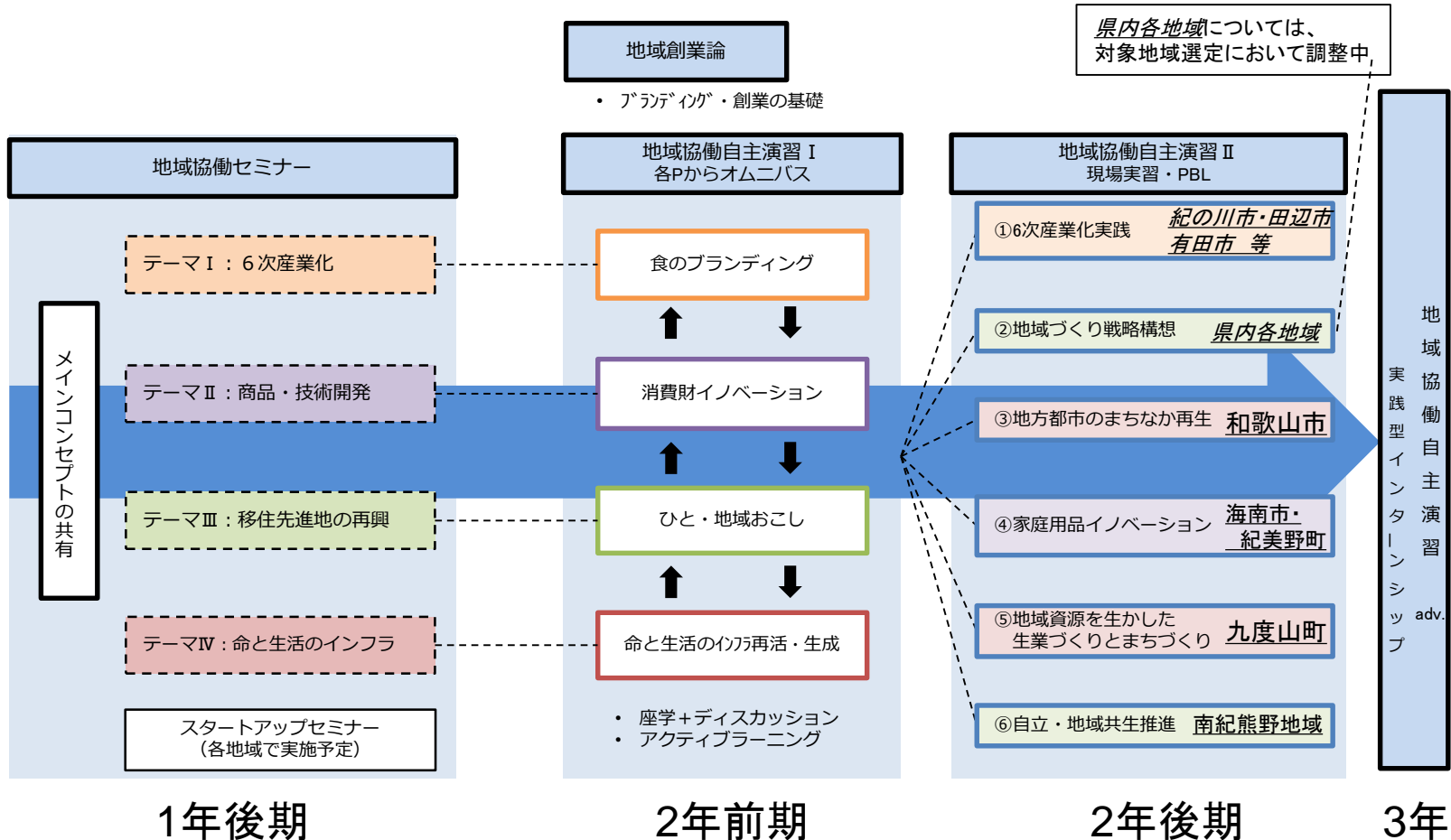
- 教育効果検証
 - • • 成績評価 + 学生アンケート (成長実感、ソーシャルスキル自己評価等)
- 社会的成果検証
 - • • プログラムの目標次第
- 満足度と改善要望
 - • • 協働先からの意見聴取、学生アンケート、その他関係先

わかやま未来学副専攻

副専攻の主な科目

1年生		2年生		3年生	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
	座学	<u>企画立案型PBL</u>	<u>実行型PBL</u>	<u>実践型インターンシップ</u>	
	地域協働セミナー プロジェクト共通 1クラスで実施 <u>教室で実施</u>	地域協働自主演習I プロジェクト共通 1クラスで実施 <u>教室で実施</u>	地域協働自主演習II 6プロジェクトに分かれて 6クラスで実施 <u>フィールド</u>	地域協働自主演習Adv. 6プロジェクト個別に随時実施 <u>フィールド</u>	
(講義時間外にスタートアップセミナーを各地域で実施 最小4クラス) フィールド	・和歌山について地域全体の概要と課題を知る	・地域の課題解決のための仮説を立案する	・地域の課題解決の仮説検証を実行する ・チームで取り組む	・異なるフィールドで地域の課題解決の仮説立案・検証を実行する ・個人で取り組む	

4つのテーマと教育プロジェクト



● 地域協働セミナー

今年度後期から開催される。実務家教員を招き、ディスカッション中心とした講義を実施。

4つのテーマの要素すべてを学ぶ。

科目名	地域協働セミナー		
担当教員	木村亮介,大浦由美,藤田和史,吉村典久,永瀬節治,小川宏樹		
対象学年	1年生	クラス	
講義室	G101	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位区分	教養
授業形態	講義	単位数	2
科目名(英語表記)	Community Collaboration Seminar		
授業のねらい・概要・科目の位置付け	わかやま未来学副専攻の導入科目として、和歌山県の「まち」「ひと」「しごと」に関する概要を知る講義です。和歌山県の地方都市・地域社会が抱える多様かつ複合的な課題を理解し、その解決に取り組むための基礎知識を学びます。副専攻の4つのテーマ「6次産業化」「商品・技術開発」「移住先進地の再興」「命と生活のインフラ」に沿って、それぞれの課題に取り組む様々な立場の方(ゲストスピーカー)から生の話を聞く。現状と課題、そして今後の可能性を学び、それらに自らがいかに取り組んでいくことができるかを考えます。		
授業計画	日	回	内容
	10月5日	1	オリエンテーション
	10月12日	2	地方創生と和歌山県の課題、各テーマの導入
	10月19日	3	まちなか公共空間を再生するー公民連携のまちづくり
	10月26日	4	まちなかで暮らしをつくるー空き家対策と活用に向けた新たな試み
	11月2日	5	中心市街地を再生するーリノベーションによるまちづくり
	11月9日	6	農で地域をつなぐー秋津野ガルテンの挑戦
	11月16日	7	農の可能性を拓くー和歌山県の農林水産業と6次産業化
	11月30日	8	わかやまで暮らすー「田舎暮らし応援県わかやま」と地域医療
	12月7日	9	中間振り返り
	12月14日	10	6次産業化をプロデュースするー地域食ブランディング
	12月21日	11	家庭用品をプロデュースするー産業の概略ー
	1月12日	12	家庭用品をプロデュースするー家庭用品産業とその振興ー
	1月18日	13	学校と地域を考えるー中山間地の教育現場と若者の役割
	1月25日	14	和歌山で起業するー創業事例と支援の取組
2月1日	15	全体の振り返り	
※ゲストの都合等により、内容の順序は入れ替わる場合があります。			

地域協働セミナー 基本タイムライン

開始	終了	所要	内容	詳細	ねらい	ゲスト	担当教員	木村	他	使用物
9:00	9:10	0:10	準備	【ゲスト】 教室へ 書類等手続き関係の処理、全体の流れ確認など 【準備】 配布物設置（前の机3カ所）		打合せ	打合せ 準備	準備	準備	配布物
9:10	9:15	0:05	復習	前回の補足・感想へのフィードバック 連絡事項	学生の意見の共有を含めて、様々な見方・考え方を紹介する		説明	(説明)		
9:15	9:20	0:05	導入	教員から今回のテーマの重要性（これからの日本・和歌山・自分達にとって）、ゲストの紹介（なぜ依頼したか、いかに貴重か）	動機付け（話を聞きたいという好奇心を湧き立てる）		説明			
9:20	9:25	0:05	GD（グループディスカッション）	今回のテーマの動機付けになる、考えやすい問いを立てる。ゲストの話聞いていくとそのヒント・答えが分かるようなもの。例）6次産業化がなぜ必要か、商店街はなぜ寂れたか、和歌山は移住人気度何位か等 GD3分。同じテーブルの2~3人で話す（プチディスカッション）。	疑問を持たせることによる動機付け（話を聞きたいという好奇心を湧き立てる） 眠気覚まし		進行	(進行)	(進行)	
9:25	9:55	0:30	講演	ゲストからのお話 実際の取り組み、その背景・構造、困難さ、面白さ (GDで考えた話に入る前に、受講生がどう考えたか数人に聞く)	表面的ではないリアルな現場を知る。 課題の根底にあるもの、背景を知る。 課題に取り組む活き活きとした姿を感じる。	講演				
9:55	10:15	0:20	質疑	受講生からの質疑応答 なければ教員からのインタビュー、担当教員以外からの質問等	質問・深掘りの仕方、様々な見方・切り口を知る		進行・質問	マイク	マイク	
10:15	10:30	0:15	GD	自分（がゲストの立場）だったらどうするかを考えるワーク。 例）どうやって移住者を増やすか、この商品をどうやって売るか等 GD5~7分。何人か発表→コメント。	他人事から自分事に引きつける 行動への動機付け（やってみたいという好奇心へ） 「地域協働自主演習Ⅰ」につなげる体験 ゲストへのお土産		進行	(進行)	(進行)	
10:30	10:35	0:05	連絡	・現場へのいざない （どこに行けばその現場が見れるのか、スタートセミナー、他の事例 WEBの紹介等） ・次回予告	なるべく現場に行くことを促す スタートセミナーのお誘い レポートに活かせるように	(説明)	説明			
10:35	10:40	0:05	感想	感想記入 ゲストへのフィードバック、GDの内容記録	興味をひいたポイントの明確化		進行	(進行)		

地域協働自主演習I

グループワークを中心とした演習形式の授業を行う。

グループワークは、3コマを1セットとしたオムニバス形式で実施。

教員が提示する「お題」の元に、事例分析、課題検討、プレゼンテーションをグループとして行う。

地域の抱える課題について、チームで分析し、提案できることを目指す。

科目名	地域協働自主演習I		
担当教員	大浦由美,木村亮介,藤田和史,永瀬節治		
対象学年	2年生	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位区分	教養
授業形態	講義	単位数	2
科目名(英語表記)	Community Collaboration Self-planning Exercise I		
授業のねらい・概要・科目の位置付け	わかやま未来学副専攻科目として、和歌山県の各地域が抱える課題を事例としたグループワークを中心とする講義です。和歌山県の地方都市・地域社会が抱える多様かつ複合的な課題を理解し、その解決策を自分たちの知恵をつかって提案します。副専攻の4つのテーマ「6次産業化」「商品・技術開発」「移住先進地の再興」「命と生活のインフラ」を含む事例をとりあげ、課題に取り組む様々な立場の方(ゲストスピーカー)からお話を聞き、現状と課題、そして今後の可能性をグループとして具体的に考えて提案します。グループワークは3回を1セットとして行い、講義を通じて4つの事例についてグループワークを行います。		
授業計画	日	回	内容
		1	オリエンテーション
		2	グループワークの基礎
		3	グループワーク1 事例の現状分析
		4	グループワーク1 事例の課題検討
		5	グループワーク1 事例の解決策提案・プレゼンテーション
		6	グループワーク2 事例の現状分析
		7	グループワーク2 事例の課題検討
		8	グループワーク2 事例の解決策提案・プレゼンテーション
		9	グループワーク3 事例の現状分析
		10	グループワーク3 事例の課題検討
		11	グループワーク3 事例の解決策提案・プレゼンテーション
		12	グループワーク4 事例の現状分析
		13	グループワーク4 事例の課題検討
		14	グループワーク4 事例の解決策提案・プレゼンテーション
	15	全体の振り返り	
※ゲストの都合等により、内容の順序は入れ替わる場合があります。			

各クール1回目

開始	終了	所要	内容	詳細	ねらい	ゲスト	担当教員	サブ教員	アシスタント	使用物品	
16:20	16:30	0:10	準備	【ゲスト】 教室へ 書類等手続き関係の処理、全体の流れ確認など 【準備】 配布物設置（前の机3カ所）			打合せ	打合せ 準備	準備	準備	配布物
16:30	16:35	0:05	復習	前回の補足・感想へのフィードバック 事前課題の補足・フィードバック 連絡事項	学生の意見の共有、事前課題を含めて、様々な見方・考え方を紹介		説明	(説明)			
16:35	16:40	0:05	導入	教員から今回のテーマの重要性（これからの日本・和歌山・自分達にとって）、ゲストの紹介（なぜ依頼したか、いかに貴重なか）	動機付け（話を聞きたいという好奇心を湧き立てる）		説明				
16:40	16:45	0:05	自己紹介ワーク	自己紹介ワークのやり方を指示する。 各班で自己紹介ワークを行う。 役割分担を決めて、 役割分担表に記入を行う。	アイスブレイク チームビルディング 眠気覚まし		進行	机間巡視 活動のフォロー	フォロー	A3用紙	
16:45	17:05	0:20	話題提供	ゲストからのお話 現場での取り組みの紹介、現状の課題を説明していただく。	表面的ではないリアルな現場を知る。 課題の根底にあるもの、背景を知る。 課題に取り組む生き生きとした姿を感じる。	話題提供				配付資料	
17:05	17:15	0:10	質疑	受講生からの質疑応答 なければ教員から、担当教員以外からの質問等	質問・深掘りの仕方、様々な見方・切り口を知る		進行・質問	マイク	マイク		
17:15	17:50	0:35	グループワーク	各班に分かれてグループワークを実施する。	自分たちで自律的に話し合い、課題を行う。			机間巡視 活動のフォロー	机間巡視 活動のフォロー		
17:50	17:55	0:05	連絡	時間になったら、次回のための連絡を行う。	なるべく現場に行くことを促す レポートに活かせるように	(説明)	説明				
17:55	18:00	0:05	作業報告書記入	作業報告書の記入	本日の作業をまとめる。		進行	(進行)		57	

各クール2回目

開始	終了	所要	内容	詳細	ねらい	ゲスト	担当教員	サブ教員	アシスタント	使用物品
16:20	16:30	0:10	準備	【準備】 配布物設置（前の机3カ所）：あれば		打合せ	打合せ準備	準備	準備	配布物
16:30	16:35	0:05	復習	前回の補足・感想へのフィードバック 連絡事項	学生の意見の共有、事前課題を含めて、様々な見方・考え方を紹介		説明	(説明)		
16:35	16:40	0:05	導入	教員から今回のテーマの重要性（これからの日本・和歌山・自分達にとって）、ゲストの紹介（なぜ依頼したか、いかに貴重か）	動機付け（話を聞きたいという好奇心を湧き立てる）		説明			
16:40	16:45	0:05	自己紹介ワーク	各班で自己紹介ワークを行う。	アイスブレイク チームビルディング 眠気覚まし		進行	机間巡視活動のフォロー	机間巡視活動のフォロー	A3用紙
16:45	17:50	1:05	グループワーク再開	各班に分かれてグループワークを実施する。	自分たちで自律的に話し合い、課題を行う。		机間巡視活動のフォロー	机間巡視活動のフォロー	机間巡視活動のフォロー	
17:50	17:55	0:05	連絡	次回予告	次回プレゼン方式の説明	(説明)	説明			
17:55	18:00	0:05	感想	作業報告書の記入	本日の到達点、次回までの作業計画について書き込む。		進行	(進行)		

各クール3回目

終了	所要	内容	詳細	ねらい	ゲスト	担当教員	サブ教員	アシスタント	使用物品
16:30	0:10	準備	【準備】 配布物設置（前の机3カ所）：あれば		打合せ	打合せ 準備	準備	準備	配布物
16:35	0:05	復習	前回の補足・感想へのフィードバック 連絡事項	学生の意見の共有、事前課題を含めて、様々な見方・考え方を紹介		説明	(説明)		
16:40	0:05	導入	教員から今回のテーマの重要性（これからの日本・和歌山・自分達にとって）、ゲストの紹介（なぜ依頼したか、いかに貴重か）	動機付け（話を聞きたいという好奇心を湧き立てる）		説明			
16:45	0:05	自己紹介ワーク	各班で自己紹介ワークを行う。	アイスブレイク チームビルディング 眠気覚まし		進行	机間巡視 活動のフォロー	フォロー	A3用紙
16:50	0:05	プレゼン準備	各班に分かれてポスタープレゼンを実施する。	自分たちで自律的に話し合い、課題を行う。		説明			養生テープ
17:40	0:50	ポスター プレゼン	各班がポスタープレゼンを行う。 審査員はプレゼンに対して採点する。 学生は他の班に対して採点する	プレゼンを行い、アイデアを他の人に伝えられるようになる。また、聞く側として他の班のプレゼンについて批判的に分析することができる。		進行			
17:50	0:10	集計・結果発表	審査員（ゲスト・教員）が1～3位を決定する。 講評をいただく。	他者のとらえ方を学ぶ。	説明 講評	説明 講評			
18:00	0:10	まとめ 次回連絡	ふりかえりシートの記入 次回課題の提示	3回をふりかえり、グループワークを振り返る。 次回課題を理解し、これまでの結果を次に生かすことができる。		進行			59